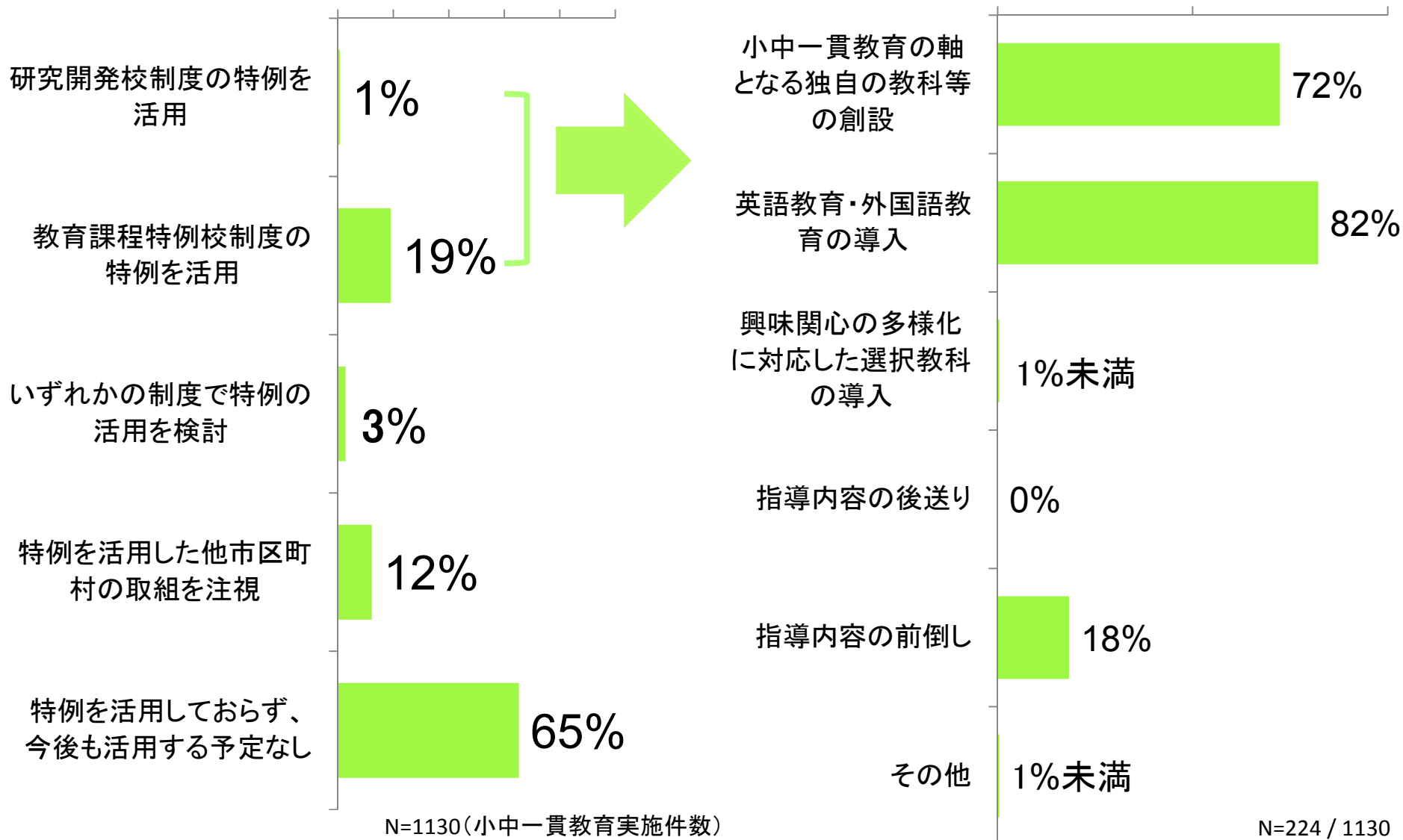


教育課程の特例を認める制度の活用状況

平成26年10月6日
初等中等教育分科会
小中一貫教育特別部会
資料1-4

特例の活用

具体的取組状況



研究開発学校制度による教育課程の特例 新地球学科等（鹿追小学校、中学校）

【教科の新設（環境教育関連）】

研究開発指定年度

平成21年度～平成26年度（延長指定を含む）

研究開発課題

世界的な視野から環境問題を解決する力をはぐくむために、小中高12年間を見通した新設教科「新地球学」を中心に、「実社会数学」や「カナダ学」との関連を図った環境教育プログラムを開発。

（1）「新地球学」

地球市民としての環境リテラシーを身につけ、環境問題の解決を図ろうとする態度を育成するため、持続可能な開発のための教育（ESD）や防災教育の要素を取り入れた環境教育を行う。

（2）「数学科」

新地球学でねらいとしている環境リテラシーを身につけさせるため、中高の数学で扱う数量関係や情報処理にかかわる内容を再構成し、実社会の事象と関連づけた数学的活動を行うことにより、事象を数理的に考察し表現する能力を高める。

（3）「カナダ学」

カナダに関わる内容のリスニングやアクティビティを取り入れた学習、異文化に対する興味関心を高める活動を通して英語に慣れ親しませ、コミュニケーション能力の基礎や国際理解に関わる基本的能力を育てる。中3ではカナダと鹿追町の環境問題について考察したことを英語でプレゼンテーションする。

特例の内容

○小学校に教科として「カナダ入門」「新地球学」を設置し、中学校に教科として「カナダ基礎」「新地球学」「実社会数学」を設置。

【組み替えの具体的内容】

（小学校）

	新設教科（※）		←	組み替え対象教科		
	カナダ入門	新地球学		生活	外国語活動	総合的な学習の時間
第1学年	46	32	←	54/102		
第2学年	47	32		55/105		
第3・4学年	47	47				70/70
第5学年	62	47			35/35	50/70
第6学年	62	47			35/35	50/70

（中学校）

	新設教科（※）			←	組み替え対象教科				
	カナダ基礎	新地球学	実社会数学		社会	数学	理科	外国語	総合的な学習の時間
第1学年	35	35		←	5/105		5/105	35/140	25/50
第2学年	35	35			5/105		5/140	35/140	25/70
第3学年	35	35	35		5/140	35/140	5/140	35/140	25/70

※組み替えた時数のほか余剰時数を活用しているため、組み替え対象教科の時数の合計と一致しない

教育課程の特例を活用した小中一貫教育の取組① 小学校英語活動（薩摩川内市） 【教科の新設（小中で系統立てた英語教育関連）】

特例開始年月

平成20年4月1日～

ねらい

小・中学校の9年間を見通し、小学校1年生から英語に対する興味・関心をもたせ、英語やコミュニケーションの楽しさを十分に味あわせた上で、中学校の英語教育への接続を円滑に行い、余裕をもって英語学習に取り組ませることにより、英語力の向上を図る。

（具体的内容例）

・小学校第1・2学年

英語の歌やゲームなどの音声を中心とした活動を通して、身近な単語や慣用的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

・小学校第3・4学年

英語の歌や基本的なあいさつ、ゲームなどの音声を中心とした活動やコミュニケーションを通して、簡単な単語や慣用的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

・小学校第5・6学年

英語の歌やゲームなど、音声を中心とし、文字も取り入れた活動やコミュニケーション、自分の考えを伝える体験を通して、簡単な単語や慣用的な表現等の英語に慣れ親しませつつ、コミュニケーション能力の素地を養う。

特例の内容

○小学校1年～6年に「小学校英語活動（評点評価なし）」を導入

【組み替えの具体的内容】

	新設教科	←	組み替え対象教科	
	小学校英語活動		総合的な学習の時間	外国語活動
第1・2学年	10	←		
第3・4学年	25		25	
第5・6学年	35			35

教育課程の特例を活用した小中一貫教育の取組② ふるさと・コミュニケーション科（薩摩川内市） 【教科の新設（郷土教育＋言語活動）】

特例開始年月

平成20年4月1日～

ねらい

ふるさとの自然や歴史・文化等を学習することにより、ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思い、ふるさとに尽くそうといった心を育み、異年齢集団の中で学び合う中で、確かな学力や豊かな表現力、コミュニケーション能力等を身に付ける。

（具体的内容例）

・ふるさとの芸能・文化・産業・自然について小・中学生が合同で地域の方に取材したり現地に出かけたりして調べ学習や体験活動を行い、まとめたことや自分の考えを発表する。

・地域の伝統芸能や文化等について調べ学習や体験学習で学んだことを、小6・中1の英語交流学習の発表会をとおして相互に伝えあう。

・自分たちの郷土・ふるさとの史跡、公共施設、出身小学校周辺の清掃活動を小学3年生と中学3年生が異年齢集団で協力して行う。

特例の内容

○小学校・中学校に教科として「ふるさと・コミュニケーション科」を設置

【組み替えの具体的内容】

①小学校

	新設教科	←	組み替え対象教科	
	ふるさと・コミュニケーション科		生活	総合的な学習の時間
第1・2学年	15	←	15/105	
第3・4学年	45		45/70	
第5・6学年	70		70/70	

②中学校

	新設教科	←	組み替え対象教科		
	ふるさと・コミュニケーション科		国語	総合的な学習の時間	特別活動
第1学年	60	←	5/140	50/50	5/35
第2・3学年	80		5/140	70/70	5/35

教育課程の特例を活用した小中一貫教育の取組③ 市民科（品川区）

【教科の新設（道徳・キャリア教育関連）】

特例開始年月

平成20年4月1日～

ねらい

教養豊かで品格のある人間形成をねらいとし、自らの生き方を自覚し、自らの人生を構築していくうえで必要となる資質と能力を育成する。道徳、特別活動、総合的な学習の時間を統合し、「ソーシャルスキルトレーニング」や「経済体験学習」など、実学的な要素を取り入れ、実際の社会で活かせるような本当の意味での生きる力をはぐくむ。

（単元例）

・3～4学年

『どうしてルールをまもらなくてはいけないの？』
『くらしとお金』、『見つけてみよう、わたしの仕事』

・5～7年生

『市民としての義務と責任』、『社会の中での規範意識』
『実社会での法やきまり』、『現代社会の問題』

・8～9年生

『社会への参加意欲の喚起』、『リーダーシップ』
『地方自治への施策提案』、『社会における正義』
『積極的なボランティア・地域活動』

特例の内容

○1年生～9年生（小1～中3）において教科として「市民科」を設置

【組み替えの具体的内容】

	新設教科	←	組み替え対象教科（※）					
	市民科		←	外国語	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	外国語活動
第1学年	85	←		34/34	34/34			
第2学年	85			35/35	35/35			
第3学年	85			35/35	35/35	70/70		
第4学年	85			35/35	35/35	70/70		
第5学年	105			35/35	35/35	70/70	35/35	
第6学年	105			35/35	35/35	70/70	35/35	
第7学年	120			140/140	35/35	35/35	50/50	
第8学年	105			140/140	35/35	35/35	70/70	
第9学年	105			140/140	35/35	35/35	70/70	

※組み替えた時数はこのほか「英語科」「ステップアップ学習」に割り当てているため、組み替えた時数の合計と新設教科の時数の合計は一致しない。

教育課程の特例を活用した小中一貫教育の取組④ 外国語科（奈良市） 【中学校から小学校への指導内容の移行：英語】

特例開始年月

平成21年4月1日～

ねらい

「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことを中心に児童に身近な単語を読んだり書いたりする学習を行い、実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」ことを目的に、小学校新学習指導要領「外国語活動」と中学校新学習指導要領「外国語科」の一貫性のある教育の実現を図る。

特例の内容

○小中一貫教育校(施設一体型小中一貫教育校・連携型小中一貫教育校)に教科として「外国語科」を設置し、中学校の指導内容を前倒し。

【組み替えの具体的内容】

現行の学習指導要領の内容を次の通り移行する。

- 第5学年に「アルファベット」「人称代名詞の所有格」「be動詞の現在形」「指示代名詞」「形容詞」「疑問詞what」「数詞」「複数」等移行する。
- 第6学年に「一般動詞の現在形」「人称代名詞の目的格」「疑問詞where,when」「助動詞can」「命令文」「現在進行形」等移行する。